

活動報告レポート	アスクル 産業復興支援
報告日	2014年12月24日
報告者	公益社団法人 シビックフォース

■報告書

気仙沼市が震災後の復興のメインテーマとして掲げた「水産と観光の融合」によるまちづくり。シビックフォースは、この2つの産業をメインとした支援を継続的に行ってきました。

まず、観光を持続可能な産業とするために、内外の専門家や企業などと協力し、「気仙沼市の観光産業の今」を調査・分析を実施。「誰もが主役になれる観光産業」を目指した取り組みが今も続けられています。こうした取り組みが、気仙沼市全体の「おもてなし意識」の向上につながり、気仙沼市全体での「観光再生」「観光事業での復興」に取り組んでいくことが大きな目標であり、着実にその目標に向かって歩んでいます。こうした活動は観光業のみならず水産業でも続けられています。

また、観光事業者への助成金制度を作るための先進事例の調査・分析を行い、気仙沼の実情にあった形での支援スキームの作成にも取り組んできました。域内外のヒト・カネ・ノウハウが効率的に循環することで長期的、かつ持続可能な産業復興につながるような仕組みが、震災から3年以上が経った今、ようやく整った段階であると言えます。

一方で、被災地への関心は時の経過とともに薄れ、支援団体の撤退も相次いでいます。これまで内外の専門家や企業との橋渡しをしてきた支援団体の撤退により、地元団体のリソースだけでは十分な活動ができないといった問題が生じてきています。つまり、持続力を持たない状態で自律を余儀なくされる地元団体が多いということが言えます。一般企業では取り組むことが難しい地域課題の解消のために立ち上がった地元団体が、志半ばにして活動を終えなければならないということのないよう、外部の専門家の適切なアドバイスを受けながら継続可能なシステムの構築が出来るようサポートする。このことが最も必要な時期であることを踏まえた、支援活動の継続が求められています。

この他にも被災地が抱える問題は多岐に渡ります。仮設住宅暮らしが長引く中、仮設住宅の集約により一度形成されたコミュニティが再び崩壊することが懸念されます。また、震災以前からの人口減少に歯止めがかからず、地域の高齢化も大きな問題となる中、震災後に要介護者が大幅に増加しました。その一方で、雇用のミスマッチが生じ介護従事者が不足。十分なサービスが提供できないなど事態は深刻化しており、高齢者がこの地域に留まり生活を

する上での大きな不安材料となっています。

シビックフォースは、復興の中心となる地元団体が直面している「リソース不足」という課題を解消するために、これからも現地に駐在員を置き、内外の専門家や被災地に継続的に関心を寄せて下さる企業・団体との橋渡しなど、フォローアップを継続していきます。そして地元団体が活動を継続していくことができるような体力を蓄えるための支援を行い、本当の意味でも「自律」が可能となるよう、フォロー致します。

皆様には、3年間に渡りご支援を賜りまして誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。おかげさまで、気仙沼の基幹産業となる水産業の再生、再生可能エネルギーと林業による産業復興支援、そして「誰もが主役になれるまちづくり」「持続可能な産業としての観光産業」の基礎作りができました。皆様の暖かいご支援を胸に刻み、これからも、シビックフォースは地元団体と寄り添い、被災地の復興の礎となるべき方々が活動を持続していくことが出来るような仕組み作りのお手伝いをして参りますことをお約束しまして、御礼のご挨拶とかえさせていただきます。